
馬鹿。

忍龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿。

【Nコード】

N3256L

【作者名】

忍龍

【あらすじ】

あいゝ、それは甘くうゝ、あいゝ、それは強くうゝ（中略）ああ
あいあればこそ 世界は一つ あい故に人は美しいゝ！！

（前書き）

ミュージカルを見たことは一度もありません。

牧場で一日乗馬体験をしていたあたしは

乗っている馬の鼻先にハチが飛んできたことで馬が驚き

あたしは落馬

気がついたら異世界にて

あたしは馬になっておりました

・
・
・
・
・
・
・

・
・
・
・
・
・
・

・
・
・
・
・
・
・

馬かよおおおおオオオオツツ！！！！

何で馬？！

あたし何か悪いことした？！

そもそも生きてることが罪？！

じゃあ生まれてきてごめんなさいだこのやろっ！

「まっててね〜ローズちゃん、今あなたの冠を作っているのよ〜」

「ブヒン（いらないし）！」

ブヒンブヒン鼻息荒く、荒れ馬の如く行ったり来たりするあたしの傍で

この国のお姫様が野原に座り込み、ばやや〜ん、とした雰囲気の花冠を作っている

お姫様を護衛する騎士は、ちょっと離れたところで待機

荒れ馬っぽいあたしが神経質そうにうろうろしても気にしない

大層気性の荒そうなたたしが生まれてこの方、人や他の動物を襲ったことは一度も無いからだ

先月、大人の馬になったあたしは

何度か王家ゆかりの名馬とつがいにされそうになったが

母馬譲りの気性の荒さを発揮して、取り合えず事なきを得ている

みんなの反応的には、あの馬の子だもん、仕方ないよね、みたいな

母馬、いや、お母様（そう呼ばないと麒麟の首攻撃みたいなので叩かれる、でもお母様に言い寄って凄まじい蹴りを喰らっていた雄馬の悲惨さに比べたらかわいいモンだった）は大層気位の高い馬で

暇さえあれば馬丁に頭突きをかまし、ブラッシングを要求していたお陰でお母様はいつもつやつやしてた

レディを意識していたのか走ることはあまりなかったけど

気に入らない相手を追い回すその姿は魔獣かと思わせる壮絶さだった

あたしはそんなお母様に、頭突きの仕方、効果的な蹴りの角度、気に入らない相手を追い回すコツなどを教わった……

いや、もっと他に教えることあるよね？

そんなお母様は、現在、第三子を産み教育中らしい

よくあの鬼のように気位の高いお母様が雄を容認したなあ、と思っていたが

あたしはその現場に出くわしている……

なんと、お母様は外国から珍しい布を持って一年に一度やってくる行商人の馬車馬と宜しくやっていたのである

お前のお父様よ、と紹介された時の
牛柄のその馬を見たときの衝撃といたらなかった・・・

馬車馬なだけあって、そこらの馬より確かに体格がよく逞しかった
のだが
なぜ牛柄なのか

正直、馬として生まれたことを理解した時よりもへこんだ

しかも、落ち込みから復活して、ふ、と両親を振り返ると
第二子の仕込み中だったのである

オiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiッ!!!!

妊娠が分かったのでお母様から親離れさせられた今、
生まれたのが弟か妹かは分からないが、元気そうだということは馬
丁の愚痴で知っている

しかし毎度何処で仕込んでくるんだろう、と馬丁たちは首を傾げて
いた

お母様はレディらしくお忍びが大好きなのだ
仔馬だったあたしの腹の下に首を突っ込んで引っ掛けたまま絶妙な
バランスで高い柵を飛び越えた時には一瞬意識が飛んだ・・・

そんな超お転婆なお母様に今、問いたい

「あらあローズちゃん、あなたのお婿さんがいらっしやっただみたいよ〜?」

「ブヒン（なぬう）?!」

お姫様ののんびりとした声に、あたしは振り返りもせず猛ダッシュをした・・・が、

「ふふふ、僕の愛しのお姫様、恥ずかしがりやさんっ」

「ぎゃあああああああ!!!!」

誇張でなく死に物狂いで走っているのに
いつの間にか隣を余裕の表情で並走しているコイツ!!

左右に広がる凶器かつてくらい立派な角！
体格は馬のあたしと比べても遜色ないくらいっていうかデカいんですけどおおおおっ！

アンタ、鹿でしょおおおおオオオオオ!!!

お母様っ、こんな時はどうすればいいですか?!
頭突きも蹴りも逃走も通じないのですが!

異種族っていうか鹿から追い回されているあたしは一体どうすればいいですか?!

「生まれてくる仔が馬鹿とか絶対にイヤアアアアアア!!!」

「鹿^{かは}馬かもしれないよ」

「やかましい!」

「ふふふ、大丈夫大丈夫」

愛に種族差なんて、存在しないのと同じだよ」

愛は・種族を・超える・イエア!!

とか言ってるんですけどっ

すっごい怖いんですけどおおおおおお!!!!

「超えさせてたまるかあああああ!!」

盗んだバイクで走り出したいくらいだけれども
バイク程度では何の足しにもならない気がする

誰かつ誰か装甲車を！！！！

いや、馬が装甲車とか、あってもどうにもならんけれども！！！！

こうして朝日も夕日もない草原を、その日あたしは力尽きるまで走り続けた

その後のことは

そのあとの……ことは……

言いたく……

・
・
・
ない

（後書き）

ところで、掛け声みたいな使われ方してるけど”イエア！”ってどういう意味なんですかね
検索したんだけど二 動の放送主がヒットしたくらいで分からなかった・・・

意味的には”よっしゃあ！！”とか”イエイツ！”みたいなもんかなーと思うのですが
そこそこどうですか、こんな解釈でいいんですかね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3256/>

馬鹿。

2011年5月20日19時54分発行